

養蜂農家の皆様へ

ミツバチヘギイタダニにご注意ください

ミツバチヘギイタダニについて

- ・ミツバチの届出伝染病である、バロア症の原因となるダニです。
- ・蜂児に寄生し、体液を吸うため発育障害を引き起こします。
- ・羽化した成蜂に腹部の萎縮、翅の奇形、脚の変形等が見られます。

対策について

ダニ防除のためには、下記（１）～（３）の方法を組み合わせた総合的管理が効果的とされています。

（１）生物学的方法

① 雄蜂児誘引法

雄蜂児は働き蜂の蜂児の 10～12 倍、ミツバチヘギイタダニを誘引することが知られています。ミツバチは春期に雄蜂の巣房が不足するため、この時期に空の枠（木枠のみ）を蜂群内に挿入すると、雄蜂用の巣房のみで構成された巣が作られます。この巣房にダニを誘引しておき、全体が蓋掛けされたタイミングで巣房を取り出して廃棄します。

② 女王蜂隔離法

女王蜂を王籠等に入れて巣箱内で隔離し、一時的に産卵を止めることでダニが寄生可能な巣房がない状態を作ります。化学的防除との併用により薬剤の有効性を向上させます。

（２）化学的防除

① 合成殺ダニ剤（アピスタン、アピパール）

ダニ防除効果は高いが、連続使用によりダニが抵抗性（薬剤耐性）を発達させる場合があるため、複数剤の交互利用が推奨されます。

② 植物抽出成分（チモバー）

外気温が1日をとおして 15～30℃となる期間に投与します。

ダニ駆除剤は適切に使用してください

(3) 物理的防除

巣箱底部にダニがすり抜けるような網板と底面に粘着シートを置くことで、化学的防除剤により蛹から落下したダニを粘着シートで捕まえて除去します。

ダニ防除のための総合的管理のイメージ

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		←-----→			←-----→		
			アピスタン		アピパール		
			アピパール		アピスタン		
	←-----→				←-----→		
	チモパール				↓		
					生物的防除		
	←-----→						
			物理的防除				

- ・アピスタン、アピパールは交互利用を推奨します。
- ・チモパールは、投与期間中に 30℃を超えないように投与時期を調整してください。
- ・化学的防除に関しては、(一社)日本養蜂協会がウェブサイト公表している「養蜂技術指導手引書Ⅴ 養蜂における衛生管理 ダニ防除技術[再改定版]」(令和5年11月第4版)を参考の上、適切な使用をお願いします。

★温暖化により、越冬期にも蜂群に有蓋蜂児が存在するようになってきました。そのため、冬季もダニの繁殖が継続する傾向がみられます。

★秋から冬の間ミツバチヘギイタダニを適正に防除し、春からのミツバチの活動期に備えましょう。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄345

TEL 0463-58-0152 FAX 0463-58-5679